



公園へでかけよう！

Discover London's Parks  
第3回

# St James's Park

## セント・ジェームズ・パーク

バッキンガム・パレス、セント・ジェームズ・パレス、そして国会議事堂（ウェストミンスター・パレス）と、3つのパレスに囲まれたセント・ジェームズ・パーク。大都会ロンドンのだ真ん中といえるロケーションにあるこの公園には、なんとコウモリやフクロウも暮らしています。そんな、ちょっと珍しいワイルドライフに出会えるのも、ロンドンの公園ならではのお楽しみです。

Text : Mami McGuinness (www.mamimcguinness.com)



開園時間：5:00～深夜（通年）

最寄り駅：St James's Park、Charing Cross、Westminster、Green Park、Victoria、Piccadilly Circus

\* 公園内の目的地によって最寄り駅が異なりますので、事前に地図等にてご確認ください

連絡先：The St James's Park Office

The Storeyard, Horse Guards Road, St James's Park, London SW1A 2BJ

Tel : 020 7930 1793

www.royalparks.org.uk/parks/st\_james\_park/

「ペリカンに餌をやらなくて下さい」。こんな案内板が、園内にある湖の周りにいくつも掲げられているセント・ジェームズ・パーク。この公園の人気者はまさしくそのペリカンたちで、彼らの周りには、写真を撮る観光客があとを絶ちません。この公園に初めてペリカンがやってきたのは1664年。ロシア大使から寄贈されたことによるそうです。現在では羽のペリカンたちが、毎日、湖のほとりて悠々と日向ぼっこをしたり、羽繕いをしたり、時には観光客におしきをするような仕草を見せて、人々の笑顔を誘っています。

ちなみに、この公園に観光客が多く訪れるのは、決してペリカン目当て、というだけではなく、そのロケーションによるところが大きいよう。訪問者は年間約550万人を数え、ヨーロッパ内でも、もっとも入園者数の多い公園のひとつに挙げられます。というのも、この公園は、ロンドンの観光名所ともいえるトラファルガー・スクエアから、バッキンガム宮殿をつなぐThe Mall（ザ・マル）という通りに沿って、その南側一帯に広がっているのです。

広さ23ヘクタールと、ロンドン市内にある他のロイヤル・パークスに比べてそれほど広いとはいえないセント・ジェームズ・パークですが、その歴史は長く、

13世紀にはハンセン病患者のための病院がこの地に建てられていました。16世紀にヘンリー8世が鹿狩り用の領地として、園内には、ラクタヤワニ、象などの動物がコレクションされていたといいます。その後、チャールズ2世の時代には、彼がフランスに亡命していた際に目にした、整然とデザインされたフランス式庭園に影響を受け、変化を遂げます。18世紀にはさらにいくつかのマイナーチェンジがあり、1820年代になって、建築家ジョン・ナッシュの監督の下、大規模に模様替え。公園はより自然主義的なスタイルになりました。その景観は、現在わたしたちが目に見える公園の風景とほとんど変わらないものだったといえます。

さて、近年での大きな変化といえるのは、2004年に、レストラン The Park (イン・ザ・パーク) がオープンしたことです。雑誌や新聞等、つねに「ベスト・レストラン」にランクされることは、いつも順番待ちの列ができています。人気の理由のひとつには、テラス席から眺める湖の景色が、のんびり穏やかな空気の流れを感じさせ、食事をよりおいしくさせるスパイスになっている、ということがあるのかもしれない。

